

大規模畑作農業視察研修報告書

7月6日午後帯広空港を出発し、羽田空港からフィンランドのヘルシンキ空港経由で7日の朝8時ドイツのベルリン空港に到着。空港でレンタカーを借りてKWS社近くのゲッティンゲンへ向かう。

7月8日 9時～15時 KWS社

会社紹介をアヒム・フェーガー氏より受ける。KWS社は、1856年に創業し現在このアインベックにおいて13haの敷地で1,800人を雇用。ビート、小麦、ライ麦、生育の早いコーンの育種を行い、40%の職員が種子の交配にかかわっているとのこと。このあと、併設しているシードプラントで、種子の品質コントロールと種子のペレット加工工程を見学する。

その後、KWS社で育種された品種等の試験を行っている農場に案内され、現在芽室町で多発している褐斑病抵抗性品種や除草剤耐性品種の展示ほど生育状況等の説明を受ける。褐斑病は世界中で問題となっており、殺菌剤の散布回数を減らし、高収量を確保できる品種開発を現在進めているとのこと。また、近年糖分低下が問題となっており、対策として密植により1株重量を抑えることで糖分を上昇させ、ha当たり糖量の向上を奨めているとのこと。

最後に、小麦の育種についてブロンツ・ステファン氏から説明を受け、ヨーロッパでは近年黄さび病、赤さび病の被害が発生しており、抵抗性品種の育種を奨めているとのことであった。

研修終了後、AMAZONE社近くのオスナブリュックへ向かう。



KWS社にて

7月9日 9時45分～16時00分 AMAZONE社

クリスチャーノ・ゲール氏からAMAZONE社の会社紹介を受け、1883年に創業し、最初は穀物の脱穀機を製造していたとのこと。現在、9か国の製造工場から世界各地に機械を供給し、約80%が輸出となっており、昨年度は800ミリオンユーロ（約1,300億円）を売り上げたとのこと。

その後、工場内を案内され、製造工程ラインを見学するとともに、スプレーヤの実演を見学、ほ場内に凹凸があってもスプレーヤのブームが安定して走行できる構造になっていることを確認する。午後からはスプレーヤの製造工場に移動し、土井ファームが補助事業で導入を予定しているスプレーヤの仕様や操作等について説明を受ける。

研修終了後、GRIMME社近くのダンメへ向かう。



AMAZONE社にて

7月10日 9時00分～15時30分 GRIMME社

ノードマン氏より会社の説明を簡単に受け、視察先の農家へ向かう。視察先の農家は、100haの面積で主に馬鈴しょと小麦を栽培し、また地域の農家に対し馬鈴しょのコントラクタを行っているとのこと。このコントラクタは、1993年に父親が立ち上げ、2014年の26歳の時に引き継ぎ現在に至っている。昨年は、馬鈴しょが高かったことから、この春26年前に父親が購入した2rowポテトハーベスタ2台を更新したとのこと。コントラクタの料金(作業および生産資材料金)は、例年ha当たり5,000€だが、今年は種いもが高く6,000～7,000€となるだろう。また、今年は雨が多く、農薬の散布回数も多くなっており、農薬代はha当たり1,000€になるだろうとのことであった。



馬鈴しょ栽培ほ場の前で

午後、GRIMME社に戻り工場内のポテトプランタとハーベスタの製造ラインを見学する。見学後、ミーティングルームにて、芽室町に導入されているポテトプランタやハーベスタとビートハーベスタについてディスカッションを行う。現在、土井ファーム、志村農場ともGRIMME社のプランタ、ハーベスタを導入して約10年が経過しており、今後更新を考えた時には作業効率の高い2rowハーベスタの導入をノードマンから奨められる。しかし、収穫に対する作業効率が高くても、日本の場合ヨーロッパと異なりその先の出荷、受入体制が整っていない状況にあるため、現状導入効果は期待できないと伝える。

研修終了後、ブレーメン空港からシュツットガルト空港へ向かう。

7月11日 9時～12時 ホーエンハイム大学

シュツットガルトの郊外にあるホーエンハイム大学へ行き、昨年の12月から小麦の育種に対する研究留学している北農研の寺澤氏と会い、教授のフレデリック氏から小麦の育種ほ場に案内される。



小麦の育種ほ場にて

試験ほ場は80ha所有しており、小麦をはじめ大麦等の育種を行っている。近年、ヨーロッパは登熟期間の天候が悪く黄さび病の発生により生産性が不安定とのこと。ドイツの小麦のha当たり収量は、通常パンに使われる品種で6～8t、飼料用では10tとすることで、芽室町で栽培している「きたほなみ」「ゆめちから」と変わらないとのこと。研修を終え、ミュンヘンへ向かい帰国する。

今回、作物の生育期間中にドイツの農業を視察し、実際に目で見て話を聞くことができ、特に農業機械の投資、導入の考え方について、大規模畑作経営を实践する上で大変参考になりました。今後も芽室町の農業発展に貢献できるよう頑張りたいと思います。

土井 慎悟